

■ 音環境調査結果

① 音環境調査の実施概要

- 9月2日に音環境調査を実施
- 支配音識別調査：7:00～8:00、9:00～12:00 ※通行車両の変化を考慮し4時間帯実施
- 聴感記述調査：9:00～10:00、11:00～12:00 ※各時間帯で3地点実施（1地点10分）

《 集音マイクの設置 》



▼ 支配音識別調査の様子
《 精密騒音計による計測 》

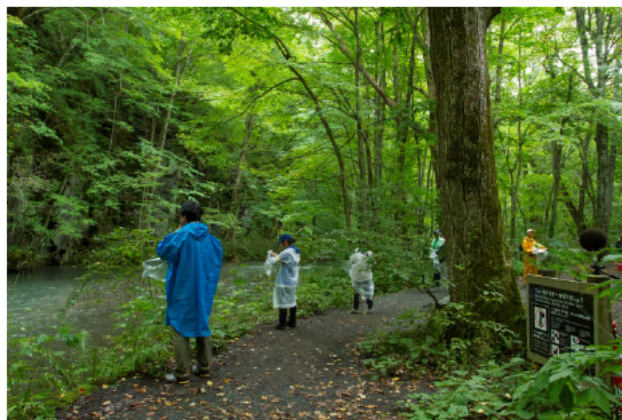


《 調査員による音種判断 》



注：調査地点通過車両の交通量調査および走行速度調査も併せて実施

▼ 聴感記述調査の様子



注：地元参加者2名、調査員3名で実施

■ 音環境調査結果

② 支配音識別調査結果

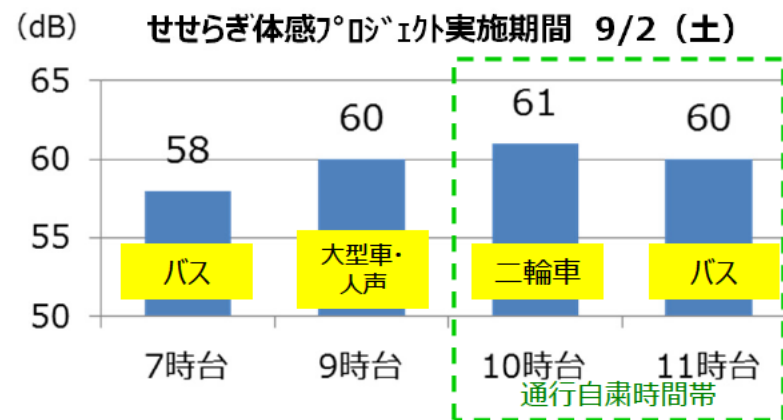
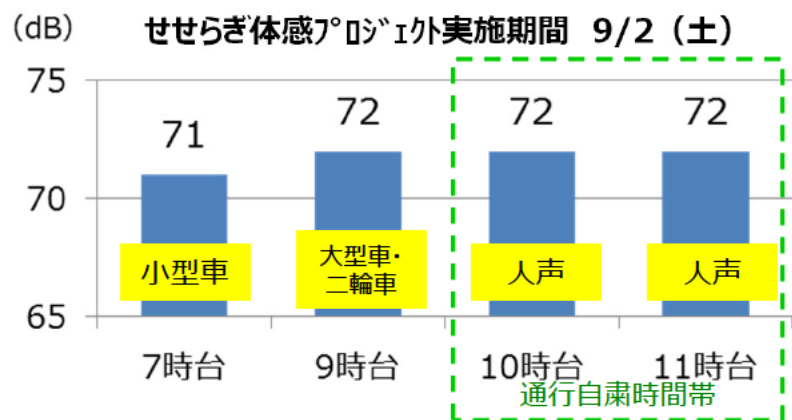
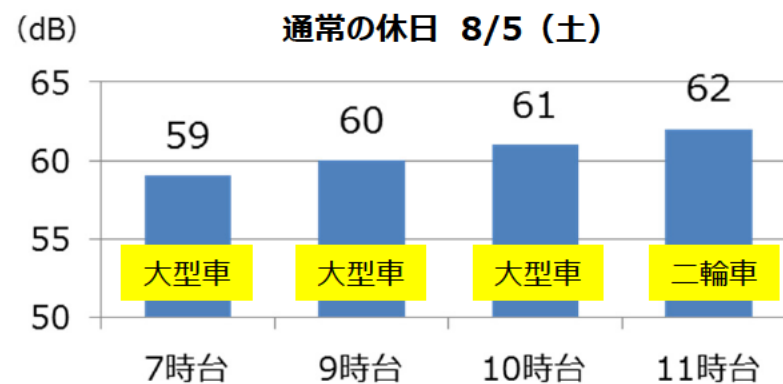
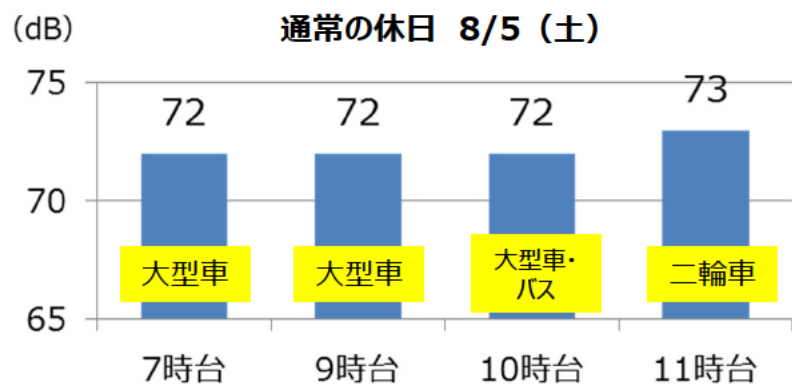
- 時間帯別の等価騒音レベルは、阿修羅の流れ付近、千筋の滝付近ともに通行自粛時間帯で低下
- 通行自粛時間帯における最大音種をみると大型車に変わり、人の声が出現し、通行自粛の効果と想定

▼ 観測地点別の測定時間帯別等価騒音レベルと最大音種

最大音種

阿修羅の流れ付近

千筋の滝付近



■ 音環境調査結果

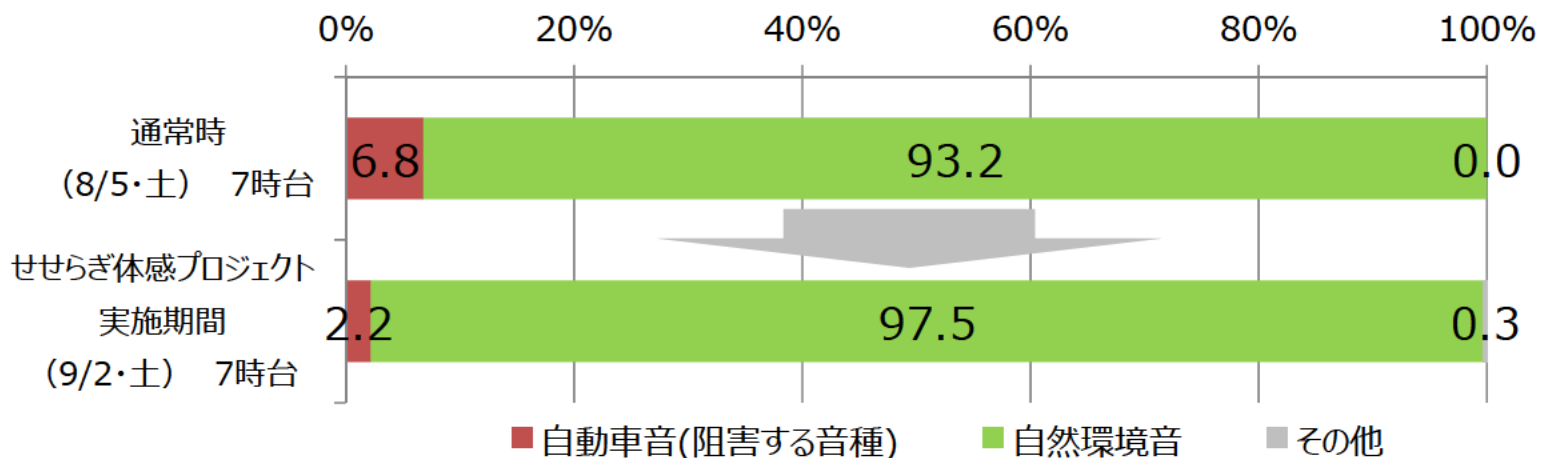
② 支配音識別調査結果

- 阿修羅の流れ付近は、溪流の流れが激しいため、7時台はせせらぎ音等の自然環境音の出現割合が高い
- 自動車交通の増加する11時台においても、せせらぎ体感プロジェクトの通行自粛時間帯では、通常時に比べ**自然環境音の出現割合が20%増加**

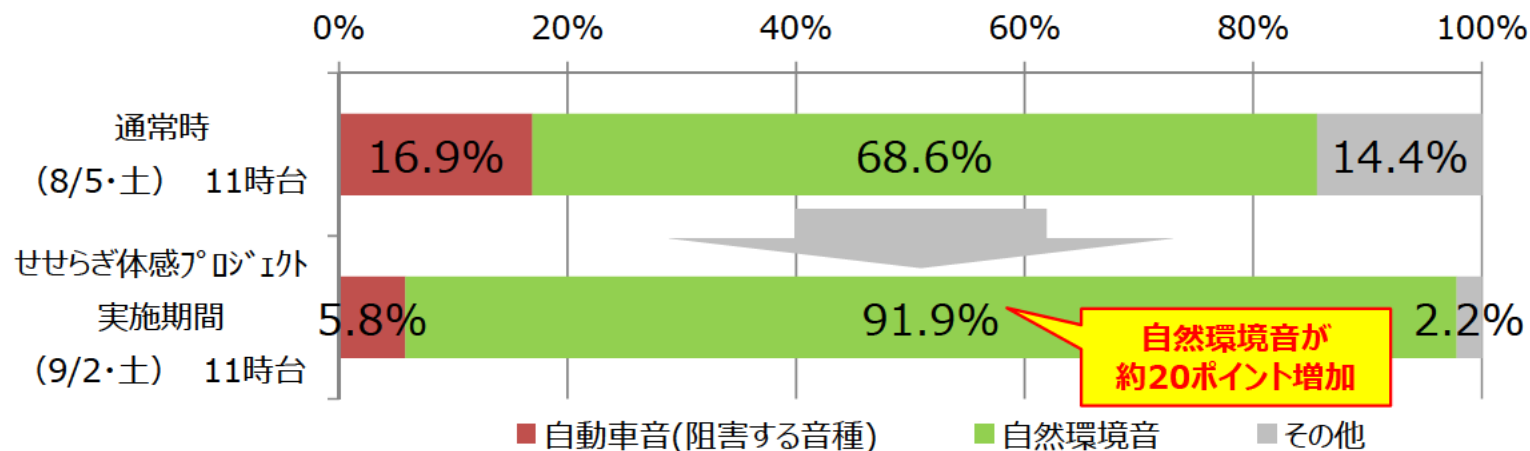
阿修羅の流れ付近

▼ 観測地点別の音種区分別出現頻度の比較

通行自粛時間帯以外



通行自粛時間帯



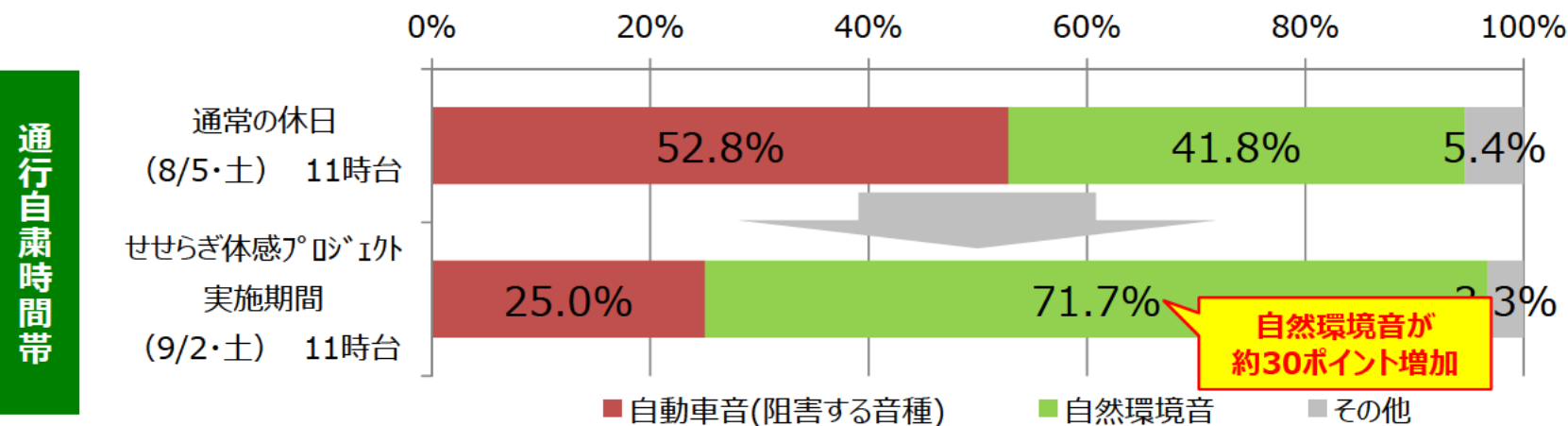
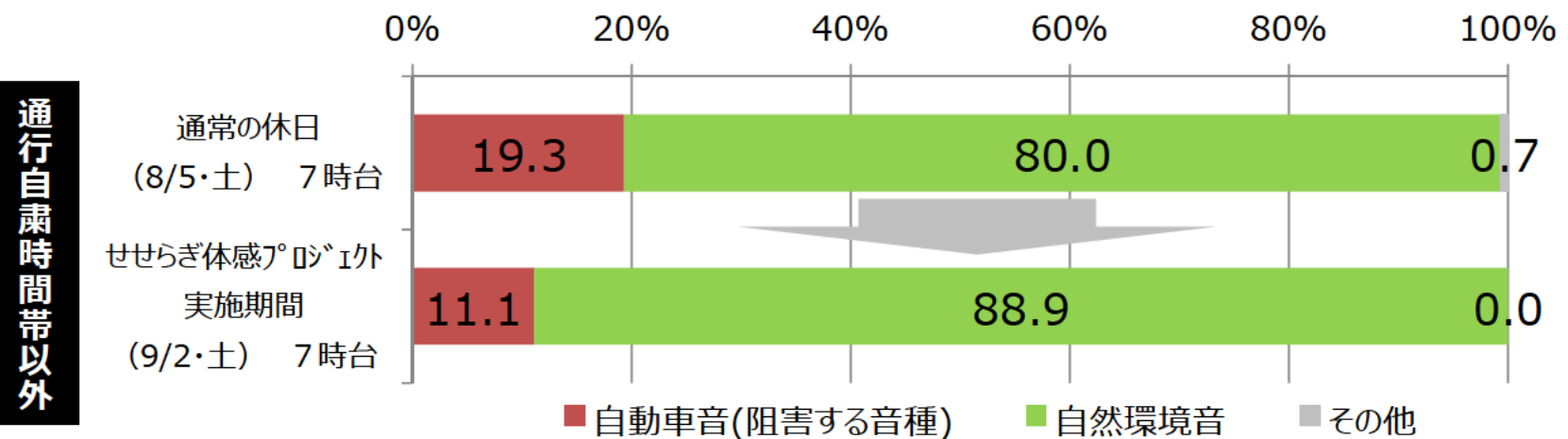
音環境調査結果

②支配音識別調査結果

- 千筋の滝付近は、奥入瀬溪流の流れが緩やかなため、阿修羅の流れ付近に比べ自動車音等の自然環境を阻害する音種の占める割合が高い
- せせらぎ体感プロジェクトの通行自粛時間帯で通常時に比べ**自然環境音の出現割合が30%増加**

千筋の滝付近

▼ 通行自粛時間帯（10～13時）における観測地点別の音種区分別出現頻度の比較

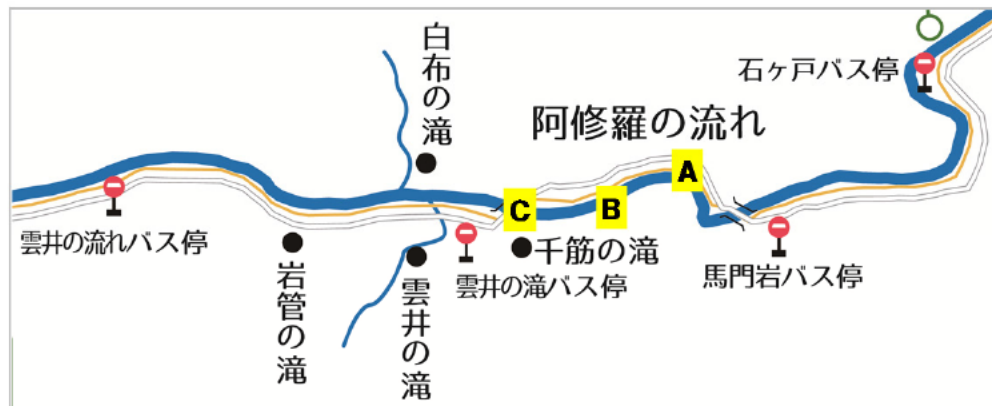


■ 音環境調査結果

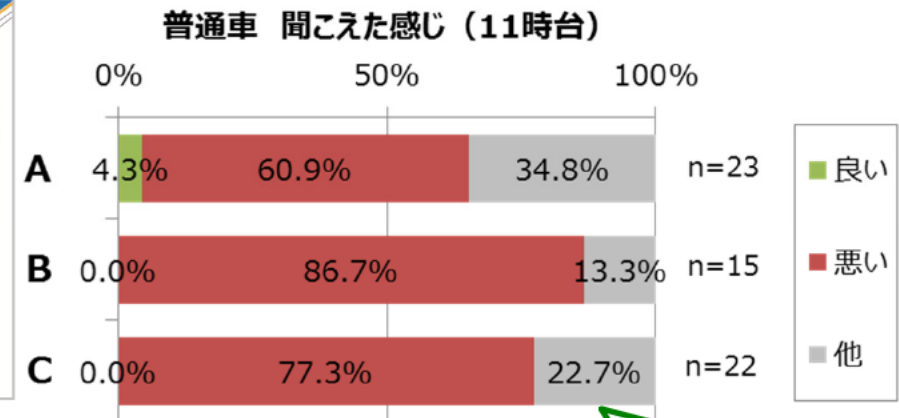
③ 聴感記述調査結果

- 聴感記述調査を3地点（A:阿修羅の流れ、B:飛金の流れ付近、C:千筋の滝）で実施
- 各地点における10分間調査の結果、奥入瀬の自然音の評価は高いが、自動車走行音は低い。地点により音の聞こえ方が異なるが、ゆっくり通過する車両は気にならないという声も多かった。

▼ 聴感記述調査の実施地点

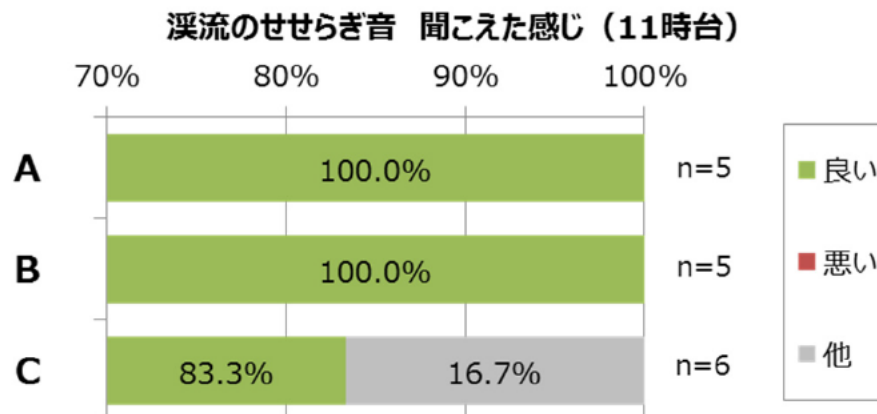


▼ 自動車走行音の聞こえた感じ

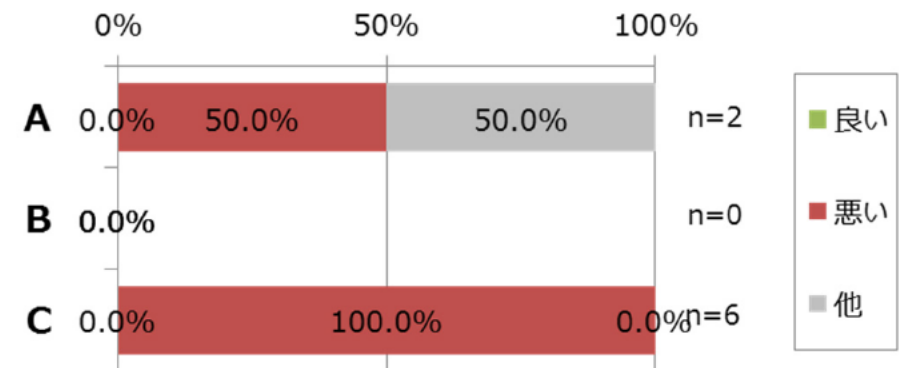


ゆっくり通過する車両は気にならないとの声あり

▼ 自然音の聞こえた感じ



大型車 聞こえた感じ (11時台)



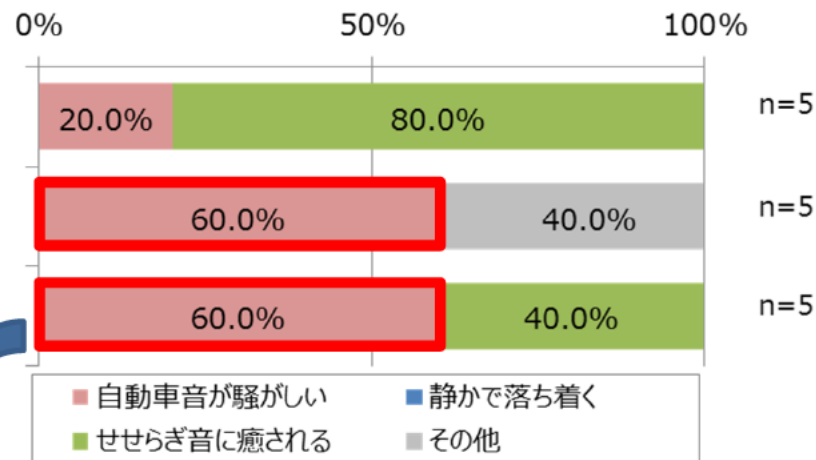
音環境調査結果

③聴感記述調査結果

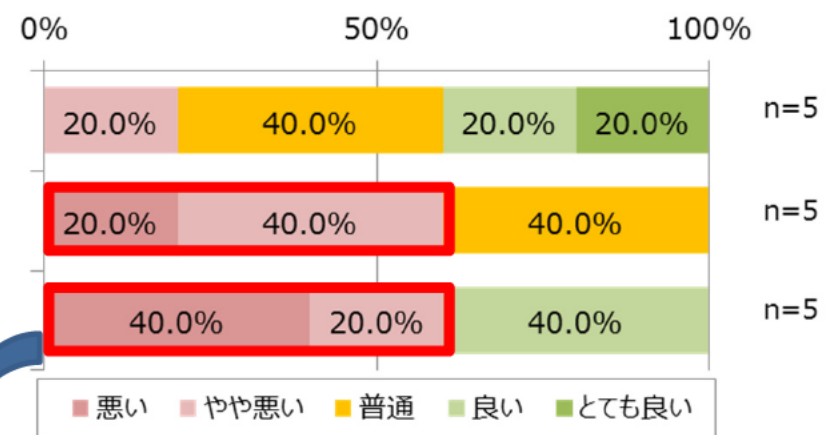
- A地点（阿修羅の流れ）は、せせらぎ音が支配的なため、自動車走行音が気にならない傾向がみられる
- B地点（飛金の流れ付近）およびC地点（千筋の滝）は、流れが緩やかなため自動車走行音が気になる割合がA地点より高いが、通行自粛を呼びかけた時間帯では、20%緩和された

▼聴感記述調査による総合評価（9月2日）

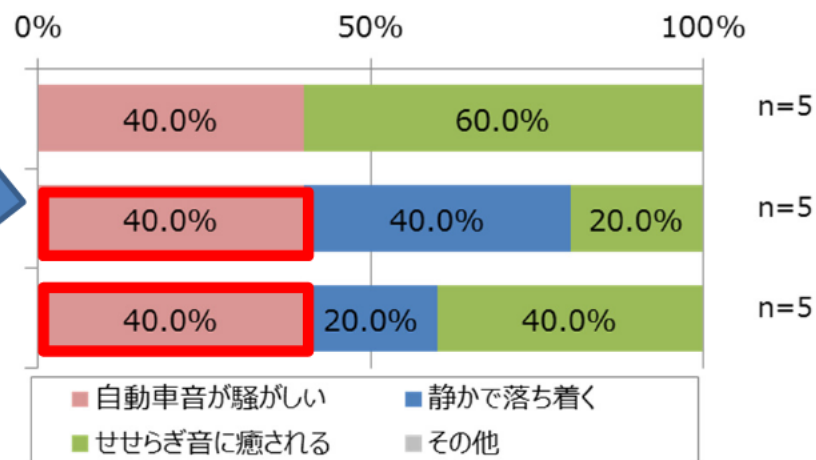
総合的な音の評価1 9時台



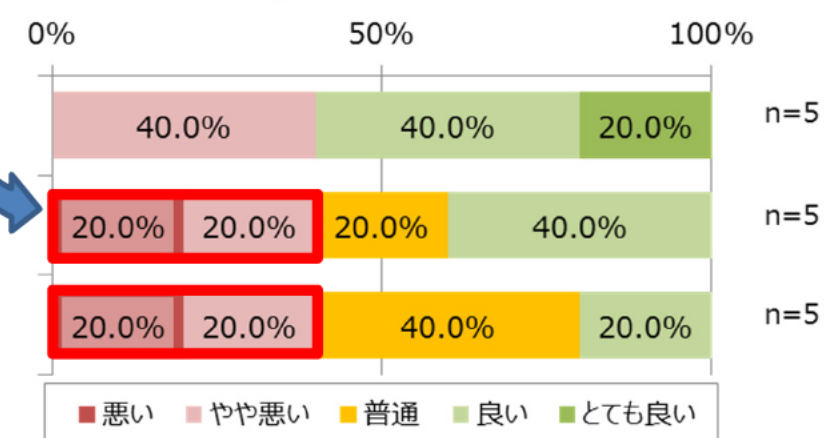
総合的な音の評価2 9時台



総合的な音の評価1 11時台



総合的な音の評価2 11時台



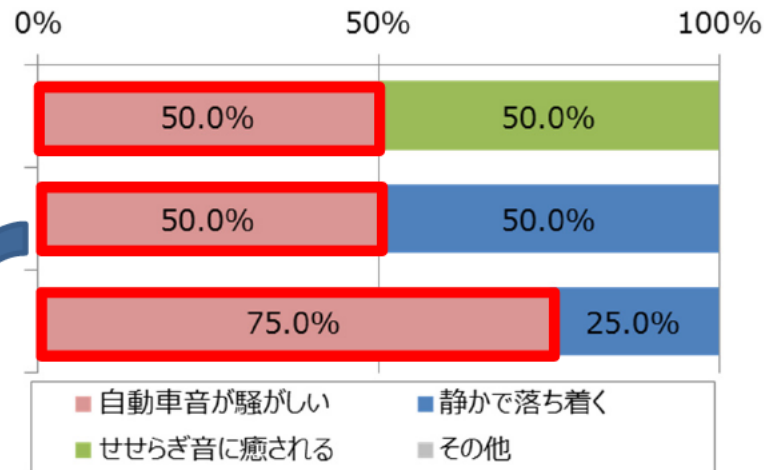
音環境調査結果

③聴感記述調査結果

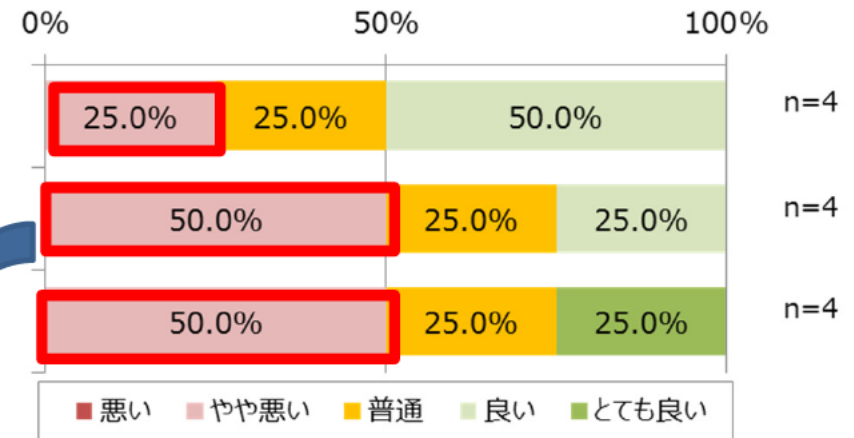
- A地点（阿修羅の流れ）は、せせらぎ音が支配的であるが、雨のため自動車走行音も気になる傾向が高い
- B地点（飛金の流れ付近）およびC地点（千筋の滝）は、流れが緩やかなため、自動車走行音に対して厳しい評価になる傾向がある

▼聴感記述調査による総合評価（8月17日）

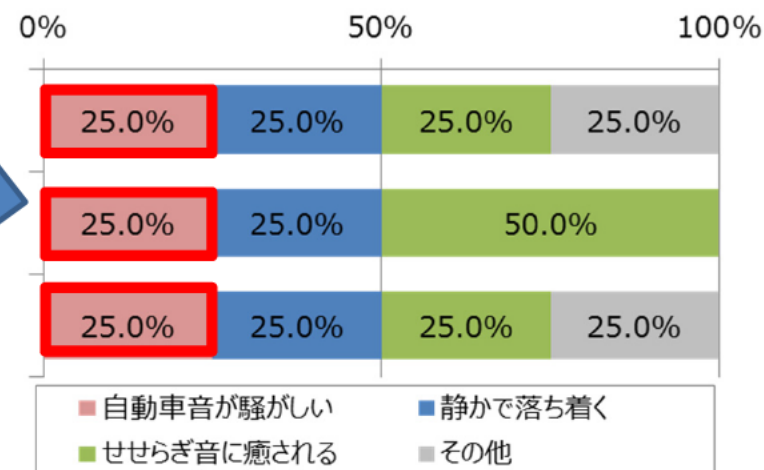
総合的な音の評価1 9時台



総合的な音の評価2 9時台



総合的な音の評価1 11時台



総合的な音の評価2 11時台

